

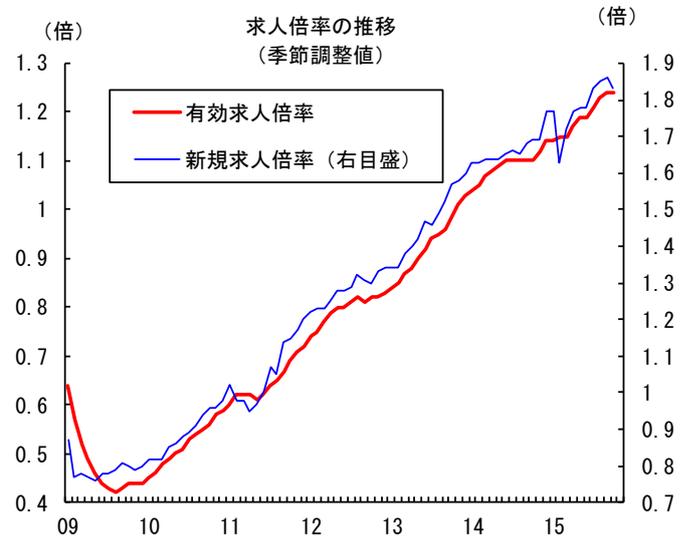
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年10月） 発表日：2015年11月27日（金）  
 ～失業率が大幅低下。雇用者数も着実に増加～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○ 失業率が大幅低下。雇用者数も着実に増加

総務省から発表された2015年10月の完全失業率は3.1%（9月：3.4%）と、横ばいを見込んでいた事前の市場予想に反して、前月差0.3%ポイントもの大幅改善となった。これは1995年7月以来の低水準であり、労働需給の引き締まりが改めて示された。

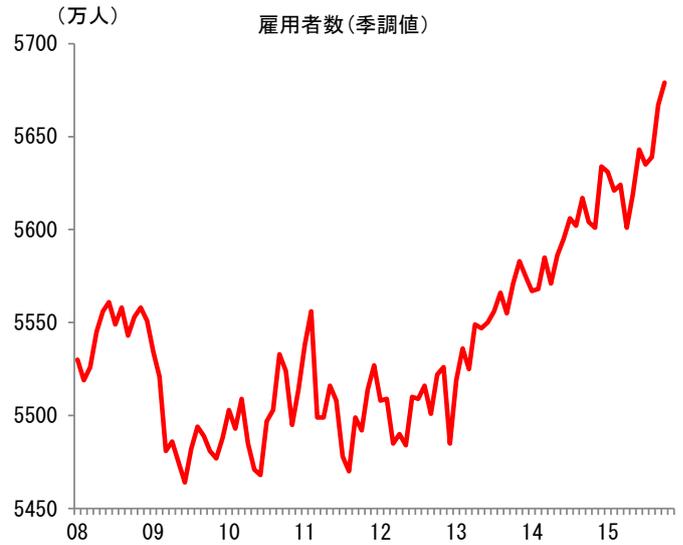
今月の失業率の大幅改善が、就業者数の増加によってではなく、労働参加率の低下（労働市場からの退出）によってもたらされていることには注意が必要（季節調整済みの就業者数は前月差▲3万人）で、今月の失業率改善はかなりの程度割り引いてみる必要があることは確かである。ただ、就業者数の減少（前月差▲3万人）にしても、9月の増加（+24万人）の割に小幅で、均してみれば増加基調が継続しているし、雇用者数は季節調整済み前月差+12万人（9月+28万人）と明確な増加傾向にある。雇用情勢が堅調なことは疑いない。

## ○ 求人数も増加

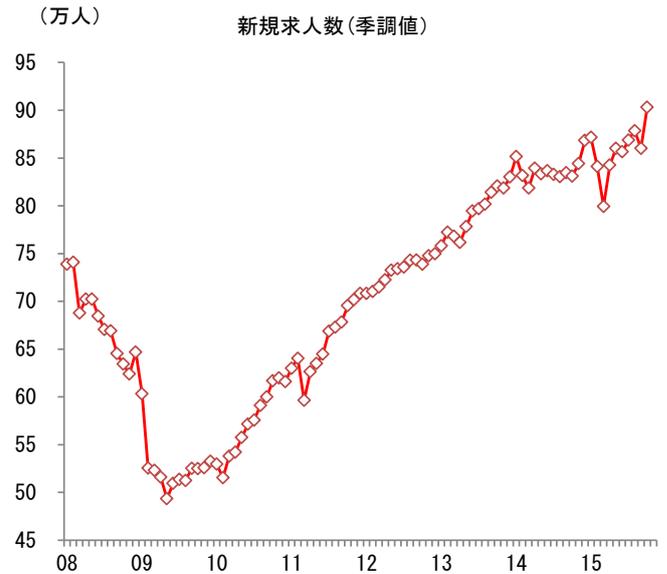
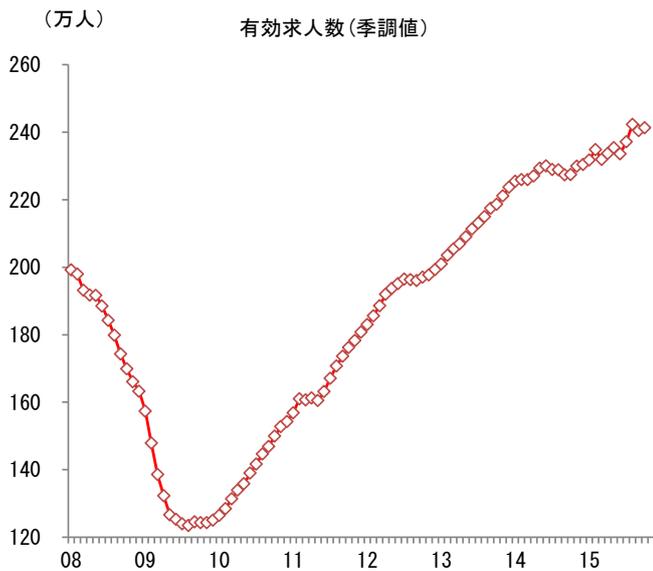
厚生労働省から公表された15年10月の有効求人倍率は前月と同水準の1.24倍、新規求人倍率は前月から0.03ポイント悪化の1.83倍となった。有効求人倍率は1992年1月（1.25倍）以来の高水準維持、新規求人倍率は低下したものの引き続き高水準だ。労働需給の引き締まりを示す結果と言える。なお、新規求人倍率の低下については、新規求職者数が前月比+6.2%と大幅に増加した影響が大きい。新規求人数は増加しており、内容は良好だ。

有効求人数は季節調整済み前月比+0.3%（9月：▲0.7%）、新規求人数は前月比+5.0%（9月：▲2.1%）だった。9月は揃って減少し、先行きに対する懸念が強まっていたが、10月は再び増加に転じ、懸念が和らぐ形になった。

10月の雇用関連指標は、雇用者数の改善基調が改めて確認されたほか、求人数も増加するなど、全体的に強い結果となった。筆者は、年度前半の景気停滞の影響が雇用に波及してくる結果、雇用動向も伸び悩んでくると予想していたが、今のところ筆者の想定以上に雇用情勢は好調さを保っているようだ。



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」